



# 御支援ありがとうございました 共に笑顔で

大船渡市立  
第一中学校



平成24年  
10月19日(金)  
大船渡市立  
第一中学校  
学校新聞「希望」  
第25号  
発行責任者 高橋莉子

## せんま祭り 感じた温かさを

10月12日から14日の3日間、静岡県浜松市の「大船渡応援し隊」さんのお招きを受けて10名の一中生が、浜松市に行ってきました。前号でお知らせしましたように、浜松市の方々の御支援によるものでした。

会場は、西ヶ崎町で中郡中学校のみなさんとの交流もあり、たいへん充実した三日間でした。

2日目は、中郡中の生徒会のみなさんと市内の見学をし、午後からは、私たち一中生が取り組んできたことをまとめたものをプレゼンテーションという形で発表しました。そのプレゼンテーションは地域の方にも向け、計4回発表することがで

静岡県浜松市立中郡中学校は、生徒会活動が盛んであり、ゆたかに一中と共通している活動も多くある学校です。また、校舎内には、多くの生徒の美術作品が展示されており、きれいな学校でした。

## がんばる 日本

生徒会のみなさんも笑顔で気さくに話かけてくれる人達でした。昨年の震災まもなく

きました。そして、3日目は、乗月院で、せんま祭りが行われました。大船渡の海の幸や銘菓を販売したり、地域の方々とお話をしたりしました。

2000人近い人達が境内を訪れ、私たちの発表や話に耳を傾けて下さいました。

どこへ行っても温かい言葉をかけて下さい。中郡中学校さんからは、生徒会を中心に募金をして下さった義援金をたくさんいただきました。遠くはなれていても私たちが忘れず支えて下さる方がいること

先日、みなさんに配布した「がんばる日本」です。これから、どんどん交流を深めていきたいと思います。このまま、ゆたかにがんばりたいです。

また、交流した学校や団体の中には、災害というもののこわさを知って、いらっしやうた方々もいました。これらの交流を通して、いつの時代、どんな災害が起ころうとも復興を担って、いくのは私たち若い世代であり、その経験を伝えていかなければならないという、ことを感じました。

を改めて深く感じました。「共に笑顔で」過ごしていただけることを誓い元気に帰校しました。

## 交流会で学んだこと

生徒会執行部では、夏休み中から、これまでたくさん人の学校や団体との交流を行ってきました。交流会では、互いの学校の生徒会活動の紹介や意見交換をいたしました。意見交換の場では、現在被災地に必要なものはないですか。やわらした方ができることはありますか。など沿岸の人々を救いたい、という思いがひしひしと伝わってきました。

また、交流した学校や団体の中には、災害というもののこわさを知って、いらっしやうた方々もいました。これらの交流を通して、いつの時代、どんな災害が起ころうとも復興を担って、いくのは私たち若い世代であり、その経験を伝えていかなければならないという、ことを感じました。

## 明日に希望、笑顔 ふるさとに

今年度の一文化祭のテーマは、「光る明日に希望ふるさとに笑顔」としました。今年のテーマは、「私たちができる復興」に着目しました。今、私たち一中生は、1学年を中心に希望隊のボランティア活動をしたり、生徒会執行部を中心に、学校新聞「希望」を発行したりと、さまざまな活動を行っています。そこで一文化祭でも、何かできることがあるのではないかと考えました。文化祭での発表を通して、自分達の思いを伝えることにより、地域の皆さんに希望を届け、笑顔にすることができると思っています。そしてその笑顔が、これからふるさとへの復興へつながっていくのではなにかと考えました。地域の皆さんに笑顔や希望を届けられるよう、取り組んでまいります。